

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872/FAX 03-5367-1873
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々には幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 12

DEC. 2008



松山 YWCA

キララ理科教室 その後の広がり

キララ理科教室がスタートして8年が経ちました。2教室で月1回ずつ開講し、毎回テーマの設定と実験や工作の準備に追われています。

キララ理科教室がスタートして8年が経ちました。2教室で月1回ずつ開講し、毎回テーマの設定と実験や工作の準備に追われています。今年から新たにNHK文化センターのキッズプログラムとしてもスタートしました。忙しくなりましたが、松山市も中学生のための理科教室をキララと同じ年8回開くことになりました。

キララは、現在生徒への働きかけは毎月30〜40人(キララ東雲教室 生徒20名・ボランティア4名、キララNHK教室 生徒16名・ボランティア3名)ですが、大人への働きかけは、私の「先生たちの研修会」や私の夢である「お母さんが運営する街中の理科教室」は今後の課題です。松山YWCA 藤井初子

になりました。それが私たちのエネルギー源になっています。昨年3月に小柴賞後科学教育賞優秀賞をいただき身に余る光栄でした。また今年11月には、ソロプロジェクト日本財団より社会ボランティア賞をいただきました。

今年から新たにNHK文化センターのキッズプログラムとしてもスタートしました。忙しくなりましたが、松山市も中学生のための理科教室をキララと同じ年8回開くことになりました。理科教育は、本来は「学校で、すべての子どもたちに無償で平等に行われるべきもの」なのです。大幅に削減されていた理科の時間も来年から少しずつ増えるようです。学校での教育が十分に行われるようになれば私たちの役目はなくなり、それはそれで結構なことだと思います。

しかし理科離れは相変わらずで改善されることなく、むしろ進んでいるように見えます。今年ノーベル賞受賞者が日本から4人も選ばれたが大変うれしく、ニュースでしたが、この受賞は30〜40年前の理工系全盛時代がもたらしたものだと思えます。現在、国は短期的成果主義を方針にしていますが、今の研究者・学生たちが20年後30年後にこのような素晴らしい成果をあげることができるのか心配です。キララは、現在生徒への働きかけは毎月30〜40人(キララ東雲教室 生徒20名・ボランティア4名、キララNHK教室 生徒16名・ボランティア3名)ですが、大人への働きかけは、私の「先生たちの研修会」や私の夢である「お母さんが運営する街中の理科教室」は今後の課題です。松山YWCA 藤井初子

本の紹介

「マルタとマリヤ イエスの世界の女性たち」

山口里子著 新教出版社 2940円+税



聖書は文字に編纂される以前は口頭文化の世界のものであった。幾重のペールを歴史的想像力を働かせて初期のクリスチャン女性たちのリーダーシップを私たちに浮かびあがらせてくれる本である。

- 「協力ありがとうございます」
賛助費(以下敬称略)
西谷さやか 横井香子
白戸道子 小川順子 石井摩耶子
白石悦子 江藤淑子 三宅あやめ
牛島栄子 奥田道子 榎津保
高橋敬子 小泉道子 古西正子
関 富子 荒川明子 大塚シゲ
平和教育資金
石井摩耶子 三木大教会・勝亦二江
オリブの本基金
石井摩耶子 三木大教会・勝亦二江
阿部幸子 藤岡綾子 与那原アイ子
野戸敬子 三井貞子 小松郁美
東橋 博 福島YWCA役員会
長崎YWCA
国際協力基金「シンパエ支援」
東京YWCA
国際協力基金「ミヤマー(エルム)のサイクロン被災者救援基金」
東京YWCA
国際協力基金「中国四川地震被災者救援」
宮城学院中学校 東京YWCA
国際協力基金「クアモ助被害者救援」
福岡YWCA
パレスチナYWCA支援基金
榎津保 横山由美子
一般寄付 石井摩耶子 浦和YWCA
唐崎由代 (2008年10月20日現在)

出来事が起きる場所

その地方で羊飼いが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れ、天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼う葉桶の中に寝て乳飲み子を見つめるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

天使たちが離れた天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。 (ルカによる福音書2章8〜12、15節)

クリスマス。最近では日本でも、きらびやかなイルミネーションが街の中心を彩るようになり、クリスマスは確かに、「光」の祝祭です。でもその光はいつたどこから来て、どこを照らすのでしょうか。2000年前、イエスの誕生に最初に出会ったのは、羊飼いたちだったと「ルカによる福音書」は語っています。羊飼いの仕事は、昼は猛暑、夜は厳しい寒さに悩まされ、泥棒や野獣などの外敵から羊たちを守るため、交代で夜、眠らずに番をし、長い距離を移動するきつい仕事です。さらにイエスの生きた時代には、羊飼いたちは自分の羊を所有できなくなり、裕福な人に雇われていたようです。労働はきつい報酬は少ない。社会の最下層の貧しい人々の仕事とみなされています。羊飼いは草を求めて野原を移動するので、「悪霊の住む荒野を歩き回る汚れた者、神に相手にされない者」と差別され、蔑視されていたといわれています。

しかし、イエスの誕生を最初に告げられたのは、町にいた権力のある王様や、賢い学者でもなく、荒野で野宿する羊飼いたち、人々から貧しく卑しい者と見なされていた者たちでした。羊飼いたちは、「あなたがたのために救い主が生まれた」という天使からの呼びかけを聞き、神は自分たちと共にいて、働きかけ続けていることを確信し、力を得たのではないでしようか。「さあ、行こう! 主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と出かけていきました。

イエスの誕生も、人々が「ごぞ中心」と思う華々しい神殿の中でも、都市の真ん中でもない、宿屋に泊めてもらえない事情を抱えた、貧乏なカッパルの間に、それも町の片隅の家畜小屋で、だれもかすりみられないこともなく起こりました。イエスが生涯の身を置いた場所も、中心地エルサレムから見れば、辺境のガリラヤでした。そこでイエスは、世の中の中心にいるような人々ではなく、外側に追いやられている人々、徴税人や「罪人」と食事をし、悪霊が取り付いたと思われるで、忌み嫌われていた病人をいやし、たくさんの「出来事」を起こされました。最後はエルサレムの町の門の外にある「ゴルゴダの丘」で処刑され、葬られ、人々が近づかない「墓」で、イエスを忘れられずに訪れた女性たちと出会ったのです。

横浜の寿町(日雇い労働者の街)にある、なか伝道所の牧師の渡辺英俊さんはこう語っています。「私たちが、現代の日本の中で、寿という場所を選んでここに移ってきたのは、ここにイエスが生きて働いておられ、ここで福音事件に出会うことができる、信じることが

菊地恵美香
日本キリスト教団六角橋教会牧師
横浜YWCA会員

なんですかね。私たちが光を持ってここを照らすなんていうのじゃない。...とんでもないことです。私たちが、ここから光が来る...、イエスの働きは、横浜のどこよりもここで起こると信じ、その事件に参加したいと願うから、ここに「移動」してきたんですね。(「地べたの神」現代の「低み」からの福音、新教出版社、2005年、102〜103ページ)。

野宿している人、私たちの社会に出会うこと

鍋谷美子

神戸YWCAには、夜回り準備会というグループがあり、野宿している人への夜回り訪問活動や野宿している人の状況を通して自分たちの生きるこの社会のおかしさについて考え、抵抗し、発信していく試みを続けています。ヤングでも、ウイメンでも、クリスチャンでもないメンバーも多のですが、その多様さが活動を豊かにしているとも思います。

細々とですが、野宿している人に出会っていると、いかに私たちの社会が今まさに歪んでいるか、そのまっただ中に私たちが身を置いているかがわかります。生活保護を受ける権利を奪われ、路上に出て来た人。仕事先で受けた労災を認定されず、きちんと治療を受けられずに障がいが残った人。少年の襲撃によって命を落とす人。つまりそれは野宿している人たちの「問題」ではなく、私たちそれぞれの抱えている「問題」なのだ気づかされます。

また、女性で野宿している人の問題も気にかかります。女性はなかなか見えにくいのですが、それは自衛のためであり、そもそも男性からの暴力や社会からの圧力で野宿に追いやられているということもあります。神戸では、野宿している女性のための施策がありません。野宿している人のための施設は不十分ながらもありますが、女性が入ることができません。見えにくくさせられている上に「それゆえに」、対策も取られていないのです。そこで見えてくる圧倒的な性差は、この社会をよく表していると感じます。女性である私たちが夜回りをするということにも、大きな意義があると思います。あるときは抑圧される存在として、またあるときは、抑圧する存在として。私たちが感じ、行動していくことはわずかばかりのことかもしれませんが、それこそがそのことは、社会の根底を揺るがす、大事なことだと思ひ、日々活動しています。(神戸YWCA会員)

12月1日は世界エイズDAY

HIVやAIDSへの理解を深め、HIVやAIDSと共に生きる人々への偏見や差別をなくそうと、今から20年前の1988年、世界保健機構が毎年12月1日を「世界エイズデー」にすることを決めました。この日、世界各地のYWCAでは、感染予防や感染後の健康管理のワークショップなどを行います。

なぜ「世界エイズデー」が必要な?

世界ではHIV感染が広まっていて、日本でも年に約1000人(1日に約3人)が新たにHIVに感染しています。HIVとAIDSは決して遠い話ではありません。特に世界では、女性の感染者が増えています。その背景には、女性の立場の弱さや、差別の問題が潜んでいます。感染ルートには、輸血・母子感染・性交渉・注射針の使い回しなどがありますが、その裏には複雑な問題が絡んでいます。

例えば、ウイルスが混ざっている血液を患者さんに輸血した(行政の問題)、男性がコンドームの装着を拒む(女性の人権と健康に対する配慮の欠如)など、目に見えない力関係が働いているといっても過言ではありません。

日本YWCAでは、世界エイズデーに関するワークショップ資料を12月中にHPIに掲載します。ご活用下さい。

My Story Her Story



自分の生きる今この瞬間も、世界のどこかで貧困や戦争に苦しむ人がいることを、国際関係を学び、知った。どの命も同じ重さなのに、時には尊重されないことがある。そのことに激しい怒りを覚え、少しでも何かしたいと思った。そんな時、名古屋YWCAと出会った。

初めてのピースアクションは忘れられない。台風が直撃した去年の夏、平和のメッセージ付きの色とりどりの袋をかぶった私たちは、豪雨の街を歩いた。警察に警備されながら堂々と車道を歩き、マイクを持って街ゆく人に思いを伝えた。

それ以来、私は4つのピースアクションに参加している。ピースアクションは、正直を言えば抽象的で実が見えにくい。実際、復興支援でも救援金集めでもないからだ。「なぜそんなことをするのか」「意味があるのか」と言われれば、かなり困る。それでも参加を止めないのは、

きっと、初めて新聞記者にインタビューされた時、「何もしなければ平和を創ることはできない」と答えたことを心のどこかでいつも覚えているからだろう。それから、自分のいる環境に感謝して、平和への思いを共有したい。微力だ、綺麗事だと言われても、声を上げ、誰かと思いを通わせ続けたい。苦しむ人のことを他人事にして、脇においやってほしくないから。

名古屋YWCAに関わるようになってから、1年が経つ。会議の進行もチラシ作成もメディア対応もマイクで語ることもそれなりにできるようになった。「普通」が何か知らないが、普通そんなことをするだろうか(笑)。人とつながりも増えた。学ぶことは本当に多い。

名古屋YWCAとの出会いは、私の人生を変えた。そう言っても少しも言い過ぎではない。 名古屋YWCA 坂本渚

2008年11月4日
内閣総理大臣 麻生太郎 様
防衛大臣 浜田靖一 様
日本YWCA
会 長 石井摩耶子
総幹事 川端 国世

前航空自衛隊幕僚長の暴言と日本政府の姿勢に抗議します

11月1日のマスコミの報道によって、田母神俊雄・航空自衛隊幕僚長が、民間企業アパグループが主催する第1回「真の近代史観」懸賞論文に応募し、「我が国が侵略国家だったというのはぬれぬ」と述べ、日本の植民地支配と戦争行為によって「現地の人々は王政から解放され、生活水準も格段に向上した」と論じて過去の植民地支配と侵略戦争を正当化し、さらには、「集団的自衛権行使」や「攻撃的兵器の保有解禁」をも事実上要求していることが明らかになりました。

日本YWCAは、正確な歴史認識をまったく欠いた論文の執筆者である田母神俊雄・前航空自衛隊幕僚長はもちろんのこと、当初、何の問題意識をもたず、論文の受賞を公然とマスコミに発表した防衛省と、この歴史認識を容認して高官に位置づけていた政府に対して、強く抗議します。

世界125カ国に女性のネットワークをもつ国際NGOである日本YWCAは、韓国・中国YWCAと協力して東北アジアの平和を実現するために取り組み、特に日韓・日中YWCAの青年たちは植民地支配とアジア太平洋戦争の歴史を直視し、平和な未来を切り開くために対話を続けています。日本YWCAは市民レベルでアジアの平和構築のために活動する多くのNGOと共に、日本政府の要人により繰り返されるこうした暴言が、アジアの人々からの信頼を失い、平和を阻む事態を招いていることに、強い憤りを覚えます。

日本政府が、田母神俊雄・航空自衛隊幕僚長を更迭し、懲戒免職にせずに退職としたことは、行政処分としてのけじめが付けられていません。このような姿勢の根底には、日本政府もまた、植民地支配とアジア太平洋戦争について正式な謝罪と被害者への補償をせず、平和憲法を遵守せず、再び戦争への道を突き進もうとしている姿勢があることを、証明しています。航空自衛隊幕僚長が展開した論理は、まさに今の日本政府が水面下で展開しつつある政治論理に通底するものだと考えます。

私たち日本YWCAは、日本政府に対して、田母神俊雄・前航空自衛隊幕僚長の論文問題とその処理の仕方に抗議するとともに、以下のことを強く求めます。

1. アジア太平洋戦争が侵略戦争であったこと及び植民地支配の不当性を認めて、国家として改めて相手諸国と地域に対して正式に謝罪すること。
2. 新テロ対策特別措置法（インド洋派兵給油 新法）を廃案にすること。

*3面「種」欄は休載します。

中高YWCA紹介

フェリス女学院中学校・高等学校YWCA

フェリス女学院中高YWCAは、現在10名ちょっとの少人数で活動しています。でも、会員が多くても少なくても、その時々でできることを楽しく明るく続けています。活動は原則として週2回、月曜のお昼休みに会食を兼ねたミーティングをし、金曜日の放課後に、ディスカッションやワークショップ、回収した使用済み切手の整理などの作業を行っています。少し前までは、文化祭の準備で毎日朝・昼・放課後に手作りクッキーを焼き、袋詰めをする、というハードな日々を送っていました。文化祭では手作りクッキーや近くの作業所で作られたパウンドケーキを販売するほか、「差別」についての展示、点字名刺の作成コーナーなどを行い、多くの方々に来場していただきました。

普段は少人数の地味な（でも楽しい！）活動が主体ですが、長期休暇には近くの施設を訪問してお手伝いしたり、ホームレスの方々のための炊き出しに参加したり、春休みには独自に宿泊の修養会をしたり、と多彩な活動もあります。また、手に障がいのある方が口や足で描いた季節のカード等を販売したり、母の日にはカーネーションを販売したり、感謝祭には野菜や果物の献品を呼びかけて近くの施設に届けたり、と全校生徒の協力を得ながら頑張っています。夏休みには中高YWCA関東地区のカンファレンス参加が毎年の楽しみです。 フェリス女学院中高YWCA顧問 野田美由紀

所在地：横浜市中区山手町178
TEL：045・641・0242



いのり—想いをあわせて



平和のために

救いの源である神さま、わたしたちは、今この時も尊い生命が奪われている状況を苦しみながら、暴力によって、血を流し続けるわたしたち人間の愚かさをお許し下さい。自分ひとりでは何もできないと考えて、行動しようとしないうわたしたちの弱さをお許し下さい。あなたの憐れみによって、わたしたちを新たにしてください。そしてあなたのみ旨を行うことができますように。イエス・キリストのみ名によって アーメン
出典：わたしたちのいのり集1・2・3合本「こころを神に」（日本聖公会「女性」が教会を考える会・東京 発行）

フランチェスコの平和をを求める祈り

神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。憎しみのあるところに愛を、いさかいのあるところにゆるしを、分裂のあるところに一致を、疑惑のあるところに信仰を、誤っているところに真理を、絶望のあるところに希望を、闇に光を、悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを、わたしが求めますように。わたしたちは、与えるから受け、ゆるすからゆるされ、自分を捨てて死に、永遠のいのちをいただくのですから。

ラインホルド・ニーバーの祈り

神よ、変えることのできないものを受けいれる潔さ、変えることのできるものを変える勇気、そして両者の違いを見分ける知恵を、私たちに与えてください



私たちは祈ります。

自分たちと、他の文化の中で生きる人々との間を隔てる壁をつくりませんように。性的虐待に苦しむ人々へ、具体的な共感を持つことができますように。世界中の子どもたちが、遊び、学ぶ機会をさらに多く持つことができますように。そして、飢えや暴力に苦しむことがなく、薬物の危険にさらされませんように。若い人々が創造性や情熱を持って、正しい調和のとれた国になる道を、拓くことができますように。また、神さまが私たちに委ねてくださった美しい被造物である世界を、これ以上わたしたちの貪欲や搾取によって破壊することがありませんように。神さま、あなたは私たちの心や感情のもっとも深いところをご存知です。どうかわたしたちの祈りを受け入れて、み心のままにお応えください。わたしたちの救い主、イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン
出典：2007年世界祈祷日式文（NCC女性委員会発行）より
「2007年世界祈祷日に寄せて」（世界祈祷日国際委員会 アイリーン・キング）

祈り

自分の力では叶いそうにないとき、神様をお願いしたりお祈りしたりすることはごく一般的になされます。キリスト教では聖書に書かれている神、つまり創造主であり、創造物のひとつであるヒトを愛して下さっている神に向かって祈ります。ずっと昔に書かれた聖書の時代から、神の存在と働きは今も続いています。祈りはその神との対話ですから、自分自身の非力を自覚しつつ全能の神に強く「求める」側面と、神の前で静かにみ旨（神の計画や考え）を「聴く」という側面とがあります。祈るとき、自分の言葉で自由に祈る場合も、定型の祈りを用いる場合もあります。言葉にして祈るということは、自分が何を祈ろうとしているのかを見つめることになると同時に、共に祈る、祈りを合わせるということも可能にします。結びに「イエス・キリストの名によって」と言うのは、神との仲立ちをお願いすることであり、「アーメン」とはその通りですと唱和する言葉です。 （編集委員 青木恵子）